

令和4年度 第1回港区区政会議 全体会議 議事録
(委員定数に満たなかったため意見交換会として開催)

1 日 時 令和4年8月4日(木)午後7時～

2 場 所 港区役所5階会議室

3 出席者(委員) 対面：穴吹委員、ヴィダル委員、加藤委員、北山委員、
讃井委員、染矢委員、田口委員、武内委員、
平井委員、山岸委員

WEB：山田委員

(港区役所) 対面：山口区長、若林副区長、西山総務課長、
西堂総合政策担当課長、細江公民地域連携担当課長、
花立協働まちづくり推進課長、早川教育担当課長、
石田保健福祉課長、瓦保健・子育て支援担当課長、
朝間生活支援担当課長、桐谷窓口サービス課長

4 議 題 (1) 令和3年度の施策・事業の評価について
(2) 特にご意見を求めたい内容に対する委員からのご意見
及び区役所の対応・考え方について
(3) その他

○西堂総合政策担当課長 時間となりましたので、始めさせていただきます。

私、港区役所総務課総合政策担当課長の西堂と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず冒頭、おわびとご報告になります。

本日の区政会議全体会議の開催にあたりまして、事前に2分の1以上の出席を確認しておりましたが、数名の委員の皆様より諸般の事情によりご欠席の連絡をいただいております。本日の区政会議は結果として定足数に満たなくなり、成立しないこととなりました。

本日は、区政会議としては成立しておりませんが、本日委員の皆様にお集まりいただいておりますので、区政に関する様々な意見交換をさせていただく機会といたしたいと思っております。誠に申し訳ございませんが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、令和4年度第1回港区政会議全体会議としましては、改めて書面にて委員の皆様よりご意見をお伺いすることとし、第2回の区政会議で区役所の考え方等についてご報告させていただきますと存じます。

それでは、次第により進めさせていただきます。

本日は、議題1として、令和3年度の施策・事業の評価について、議題2としまして、特にご意見を求めたい内容に対する委員からのご意見及び区役所の対応・考え方について、議題3、その他となっています。全て説明は短めに、議論や質疑を長めに取ってまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に、この会議で使用する資料の確認です。

6月24日付で事前に送付させていただきました事前配布資料1、令和3年度港区運営方針に関する自己評価の概要版、7月15日付で事前に送付させていただきました区政会議で特にご意見を求めたい内容に対する委員からのご意見及び区役所の対応・考え方、8月2日付で事前に送付させていただきました部会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方、令和3年度第2回区政会議全体会議で出されたご意見と区役所の対応（進捗報告）、「未来と世界にひらくまち・港区～未来志向のまちづくり～」、なお、先ほど申し上げました8月2日付の3点の資料につきましては、本日、当日配付資料⑤、⑥、⑦として机の上に置いております。ウェブ参加の方には後ほど画面で共有させていただきます。

資料について、無い方がいらっしゃいましたら挙手でお知らせ願います。

それでは、議事に先立ちまして山口区長からご挨拶を申し上げます。

○山口区長 皆さん、こんばんは。

本日は全体会ということにはならなかったんですけども、この機会に各部会の報告も受けて、また、それをここにお集まりの皆さん、またウェブでご参加の皆さんと意見交換ができたというふうに思っております。

あと、後ほど時間をいただきまして、筋原区長から引き継ぎました、そしてまた自分が考える今後の港区のまちづくりについてお話をさせていただきたいと思っております。

本日は、昨年度の港区のいろいろな施策について振り返り、また評価もしていただき、ご意見いただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○西堂総合政策担当課長 ありがとうございます。

本日は区政会議としては成立しておりませんが、後日、会議録を公開するために録音いたしますので、発言の際は必ずマイクをご使用ください。

本日は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら進めてまいりますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。会議中少しでも体調が優れないようなことがございましたら、遠慮なくおっしゃってください。

なお、本日は大阪市会議員の西議員、山本議員にご出席いただいておりますことをご報告いたします。なお、藤田議員につきましては公務のためご欠席です。

本日の会議時間は1時間弱程度とし、午後8時過ぎの終了を予定しております。時間内に活発な意見交換が行われ、会議を効率よく進めることができますよう、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入る前に、先日開催されました各部会の主な内容を簡単にご報告いただきたいと存じます。当日配布資料⑤部会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方も併せてご覧ください。

では、福祉部会からお願いいたします。

○讚井委員 福祉部会の讚井といたします。よろしくお願いします。

福祉部会においては、特にご意見はございませんでしたが、2点ほどの発言がございましたので、報告させていただきます。

まず1点目は、港区社会福祉協議会の加藤委員から、「あんしんさぽーと事業」に関する報告がありました。

高齢者や障がい者の金銭的な支援として「あんしんさぽーと事業」を行っておりますが、申請してから利用できるまでの期間が長く、必要なときにすぐに利用できないなどという状況があります。どうしても、利用者の大切な資産を預かるため、利用者の意思や判断能力を

複数回の面談を重ねて慎重に判断するので確認に時間がかかってしまうのは仕方ないことですが、なるべくタイムリーに利用につなげるために、各地区で行われる会議等で制度を事前に周知し、しかるべきタイミングで利用できるように改善に努めておられるとのことでした。

2点目は里親制度に関してですが、区役所より里親への理解と普及についての意見を求められたところ、オブザーバーの森田氏から週末里親を経験されての感想をお話ししていただきました。里親を通じて子どもの成長を見ることができ、喜びを感じることができて、経験してよかったとおっしゃっておられました。また、山口区長自身も里親を経験されており、ご自身の経験に基づいたお話をしていただきました。

里親と聞くと敷居が高いような感じがしますが、週末里親なら入りやすいと思いますし、私自身も里親制度にいろいろな形があることを初めて知りましたので、このような里親の体験談や成功例を紹介することで、里親になるハードルを下げたり制度への理解が深まるよう、広く皆さんに周知していければと感じていました。

以上で報告を終わります。

○西堂総合政策担当課長 ありがとうございます。

引き続き、こども青少年部会より、よろしく願いいたします。

○染矢委員 皆さん、こんばんは。こども青少年部会の染矢と申します。

7月26日の当部会の報告をいたします。

委員の方から、当部会の関係で課題と考えているものや今後区長が力を入れていこうと考えているものは何かとのご質問があり、区長より、先日開催した教育行政連絡会で、小・中学校の校長から不登校児童・生徒への対策を求められたところで、そこをしっかりと取り組んでいきたい。また、サポーターなどの人材確保も課題であることから、ボランティアとして活動していただける方、各委員やPTA、保護者の方で例えば教員免許をお持ちの方や外国語が話せる方など、それぞれのお力をお借りできるとありがたいと答えられました。

次に、委員から、小・中学校の校長先生に対し区から説明のあった部活動の地域移行、不登校児童・生徒への支援策について、学校の現状、課題について聞かせてほしいというお話に対し、校長先生より、生徒数の減少に伴い部活動の数も減少しているが、学校選択制で、入りたいクラブのある学校を選択できていることで補っている。現在の部活動は教員と生徒の関係であり、教員に専門の指導者はいないこと、専門の指導者となるとかなりの費用がかかることになること、また、土日と平日を切り分けることも難しく、全て地域に移行するほうがいいと思っておられるということ、いずれにしても学校現場の理解が追いついていない

のが現状であるとお答えになりました。

学校の現状については、コロナ禍で教員の負担も大きくなっている。また、教員の実数が少ないことが課題であり、現在では教員も感染して休むことも多々あり、小学校の担任が休むと代替の教員がいない。不登校対策としてサポート支援をしていただいているが、サポーターとの相性が重要であり、これまでの経験では、不登校の原因は複合的なもので難しく、やはり教員が不登校児童をサポートすることが軸と感じておられます。

次に、前回、令和4年2月28日の当部会で当時の筋原区長から学校配置の適正化についてのお話がありましたが、その後どのように検討が進められているかの質問に対し、事務局より、前回の部会での筋原区長の発言を紹介された後、山口区長から、今、内部で様々な検討をしているところで、例えば公園の活用などは難しい問題があることも分かってきたほか、築港中学校の1年生は15人しかいなくて、うち女子生徒が4人だけでかなり課題がある環境であると再認識しておられるとのこと。また、学校にヒアリングを行った中で、教員や生徒から、人数が少ないための部活動のしんどさや、高校進学後に新しい人や大勢の人と関わることへの不安のほか、小規模の学校のよさがあることも伺ってきたとのこと。

今後、地域の方や学校の意見も聞きながら検討を進めたい、また、学校選択制により、エリアで偏りが生じている現状もあるが、区の判断で制限をかけると不利益を被る方も出てくるなど難しい側面もあり、まずは市で行っているワーキングでの検討を見守りたいと答えられました。

こども青少年部会からのご報告は以上です。

○西堂総合政策担当課長 ありがとうございます。

では、最後に防災・防犯部会より、よろしく願いいたします。

○穴吹委員 こんばんは。防災・防犯部会の穴吹です。よろしく申し上げます。

防災・防犯部会は、ちょうど1週間前の先週7月29日に開催しました。

出された主な意見では、福祉避難所での防災学習会や訓練方法の内容を知る方法、防災リーダーの平均年齢、個別避難計画における避難行動要支援者の対象者や計画作成の期間等について、いろんな質問が出されました。

福祉避難所での訓練については今後概要を区のホームページに掲載していくことや、港区の防災リーダーの平均年齢は大阪市全体の平均64.5歳よりも3.5歳若い61歳であること、また、避難行動要支援者の対象がこれまで行っている見守り名簿と同じ対象者であり、残り4年で計画を作成していくことの回答がありました。

また、区民まつりや天保山まつりなど、いろんな機会を通して防災の啓発をすべきという意見が活発に出されました。

以上です。

○西堂総合政策担当課長 ありがとうございます。

それでは、讃井議長、議事進行をよろしくお願ひいたします。

○讃井議長 改めて、皆さんこんばんは。議長として進行役を務めさせていただきます讃井です。よろしくお願ひします。着座にて失礼させていただきます。

皆さんのご協力をいただき、活発なご意見をいただきたいと思います。会議を円滑に進めてまいりたいと思いますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

それでは、議題に入ります。

議題1、令和3年度施策・事業の評価について、議題2、特にご意見を求めたい内容に対する委員からのご意見及び区役所の対応・考え方について、区役所から続けて説明のほうをよろしくお願ひします。

なお、説明の後、一括して委員の皆さんからご意見やご質問をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○西堂総合政策担当課長 まず、議題1、令和3年度の施策・事業の評価についてに関しましては、資料の事前送付の際にも記載しておりましたとおり、事前配布資料1、令和3年度港区運営方針に関する自己評価の概要版をご一読いただき、先日の部会でもご確認をいただいておりますので、説明は省略させていただきます。

議題2、特にご意見を求めたい内容に対する委員からのご意見及び区役所の対応・考え方について、事前送付資料、区政会議で特にご意見を求めたい内容に対する委員からのご意見及び区役所の対応・考え方の3ページをご覧ください。

番号3の全体会議での事項として、区役所より大阪・関西万博開催を契機とした港区の活性化に向けた取組アイデアについてご意見を求めたところ、委員からのご意見として、港区伝統の三社神社祭りははじめとする神社の夏祭りや区民まつりや天保山まつりを万博開催時期にできれば、観光客も参加して楽しめるように大きなイベントにできればと思います、新しい交流センターでもイベントができればいいと思うといったご意見をいただきました。

区役所の対応・考え方としましては、港区では地域に根づいた伝統的な祭りやイベント等が活発に行われ、港区の活力の源泉となっており、大阪・関西万博開催により大阪湾岸部に注目が集まっている絶好の機会を逃すことなく、これまで築かれてきた地域での取組をベー

スとして、万博開催時に訪れる多くの来街者にも参画いただき、区民と来街者が交流できるような取組を検討するとともに、また、（仮称）区画整理記念・交流会館についても、港区の多世代交流の拠点として、地域活動とも連携した多様な取組を効果的に実施していきたいとしております。

簡単ですが、議題1、議題2についての説明は以上となりますので、よろしくお願ひいたします。

○讚井議長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告に対するご質問やご意見などを賜りたいと思いますが、どなたかございませんでしょうか。

はい、よろしくお願ひします。

○北山委員 障がい者地域自立支援協議会、防犯・防災部会の北山です。

弁天町駅周辺のバリアフリーに向けた取組に関して、1点ご質問、1点意見としてお話しさせていただきます。

ご質問としまして、国道43号沿いに設置される地下鉄と地上を結ぶエレベーターの設置について、将来的に非常に便利になるのでとても期待しております。そこで、完成のめどや直近の進捗状況について、具体的に何かありましたら教えていただけると幸いです。

意見として、交通バリアフリー弁天町地区連絡会議にて、JR駅工事に関して、改札口が南口と中央口の2改札になると聞いております。既存の北口に関して今後どうなるのか不安であるといった声が上がっており、また、北口がもしなくなるのであれば、既存の北口改札から地下鉄やJRにアクセスするスロープは斜面が急なため、車椅子ユーザーやお年寄りには大変不便です。

弁天エリア、波除エリアの方、また全ての方、どんな方でも弁天町駅にアクセスしやすい設計と、さらなる検討をお願ひいたします。

○讚井議長 ありがとうございます。

区役所から説明お願ひします。

○細江公民地域連携担当課長 ご質問とご意見ありがとうございます。この件につきまして回答させていただきます公民地域連携担当課長の細江と申します。よろしくお願ひします。

ご質問いただきました1点目の国道43号と地下鉄との接続については、地下道の件でしょうか。

○北山委員 はい。

○細江公民地域連携担当課長 地下道については国土交通省が管理しており、弁天町駅前交差点の東西をつなぐ2本の地下道に、それぞれエレベーターを整備するというので、エレベーターの本体工事の着手に先立って、電線共同溝とか地下に埋設されているそういう支障になる管路とかの移設を昨年度完了したという報告を受けています。

今年度からエレベーターの本体工事に着手するというので、現在、工事に向けていろいろな手続や準備を進めており、国からは、工事のことですので、明確にこの時期までに完成すると断言はできないが、2025年の大阪・関西万博には間に合うように進めていくと報告を受けていますので、ご理解いただけたらと思います。

あと、JR弁天町駅の件ですけれども、今年の1月31日に、港区役所が事務局である交通バリアフリー弁天町地区連絡調整会議でJR西日本から弁天町駅の改良工事について、今、南北にそれぞれある改札口は、最終的には中央に集約するが、万博のときは人も多く来るので、全ての改札口は新しくできるものも含めて稼働して、駅舎もバリアフリー化は図っていくという説明はありましたが、まだやはり地域の方や当日出席されていたバリアフリー連絡調整会議のメンバーの皆様も、その場だけの説明では非常に分かりにくかったということと、北改札口がなくなることについてご不安とか、ちょっと懸念されるご意見もいろいろいただいたところで、一旦JR西日本としても、その意見を踏まえていろいろと検討はされているということで、連絡いただいています。

区役所としても、この間、地域の声をしっかりと受け止めて、検討できるところは検討していただいて、丁寧な説明をしていただくようJR西日本に働きかけもしてきたところです。

また、現在、JR西日本から大阪ベイトワースさんの連絡通路の関係とか、そういったところもいろいろとJRさんで検討されており、まとまりましたら、近々、地域の代表の町会長の方や、バリアフリー連絡調整会議でももう一度JR西日本から工事の考え方を説明していただき、またご意見いただきながら、いい形で進めていけるよう区役所としても取り組んでいきたいと考えています。

また近々、バリアフリー連絡調整会議の開催も考えていますので、いろいろ調整を今後進めるに当たりましてご協力いただければと思います。

今の区の考え方は以上です。

○北山委員 ありがとうございます。

○讚井議長 ありがとうございます。

それではよろしいでしょうか。

○北山委員 ありがとうございます。

○讚井議長 ほかにご意見、ご質問を賜りたいと思います。

○加藤副議長 失礼します。福祉部会の加藤と申します。よろしくお願いいたします。

前回ももしかしたら同じようなこと申し上げたかもしれないんですけども、先ほど子ども青少年部会で学校配置の適正化についてのお話がありました。この中でも、やはり子どもさん、生徒さんが減っている学校では非常にクラブ活動の問題であったり課題があるというようなお話もございました。子どもさんへの影響ももちろんのことなんですけれども、子どもさんが減るということは親御さんも減るということになりますので、長い目で見たときに地域の担い手の方が減っていくということにもつながるのかなというふうに感じております。

今、各地域、地域福祉活動計画のワークショップで順次回らせていただく中でも、やっぱり地域によって本当に子どもさんが減っているところについてはそこが課題だということも挙がっておりますので、そういった視点でも、長い目で見たときに地域の活性化ですとか担い手の不足ということにつながると。そういった視点も含めて学校配置ですとか選択制についてご検討いただければありがたいなということで、よろしくお願いいたします。

学校と地域が協力して地域の子どもを育てていこうというふうにいただいておりますので、コミュニティの輪を大事にさせていただけるようどうぞよろしくお願いいたします。

○讚井議長 ありがとうございます。

区役所のほう、ご意見何かございますでしょうか。

○早川教育担当課長 教育担当課長の早川と申します。

先ほどの部会の報告のとおり今、内部で検討を進めており、学校選択制につきましても市のほうで今ワーキングで検討しておりますので、その動きを見ながら今後活性化していくように取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○讚井議長 ありがとうございます。

ほか、ご意見等ございますでしょうか。

○穴吹委員 防災部会の穴吹です。

先ほど関西万博に向けての何かアイデアはないかということなんですけれども、これは先週の防災部会で松本委員からちょっとアイデアが出たんです。ぜひ天保山まつりとか区民まつりで空飛ぶ車、あれを活用して何か、本当はそれを防災にPRできないかということなんですけれども、25年になれば実用化されて、もうタクシー代わりになると思うんです。来年、

23年、24年であれば結構話題もあるし、当然万博のPRにもなるし、防災にもなっているんじゃないかなと思う。ぜひそれを検討していただきたいなと思います。

以上です。

○讃井議長 ありがとうございます。

区役所のほう、何かご説明は。

○細江公民地域連携担当課長 ご意見ありがとうございます。公民地域連携担当課長の細江です。

昨年の10月、空飛ぶ車の実証実験ということで中央突堤のところで、まだ空飛ぶ車自体ではないですけども、物流用ドローンを使った実証実験というの、筋原区長のほうも当時いろいろ大阪府とか、また先端技術のそういうところの取組と連携しながら、地域の皆さんにも見ていただくような機会もつくらせていただきました。

おっしゃっていただいていたように、やはり港区というのが湾岸エリアでも一番そういう実証実験とか新しい技術をまちづくりにしっかりとつなげていくような取組というのをぜひ進めていけたらということで取り組んでいきたいと思いますので、またそういったご意見をしっかりと踏まえながら、今後新しい動きにもしっかりと反応できるように、こちらとしてもアンテナを張りながら施策を進めていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

○讃井議長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。ほかに。

○武内委員 福祉部会の武内です。

先月の福祉部会の後にちょっと地域であって、そのときにまた疑問に思ったんですけども、子どもの虐待の件なんです。ニュースとかで虐待の事件があるたびに、児童相談所の職員の方の人数が足りないとか1人の件数が多くてなかなか見られないとかということをもう何年も前からよく聞くんです。

ちょっとお聞きしたいんですけども、予算とかで職員さんの数が増やせないのか、増やしても件数がどんどん増えていってそれに対応できないのか、どちらかなと思ってちょっとお聞きしたいのですが。

○讃井議長 ありがとうございます。

区役所のほう、よろしくお願ひします。

○瓦保健・子育て支援担当課長 子育て支援担当課長の瓦です。ご意見ありがとうございます。

確かに、日々ニュース等で毎日のように、先日も富田林で2歳の子どもが亡くなるという悲惨な事件がありまして、皆さんも心を痛めておられることかと思えますけれども、大阪市の体制としまして、いわゆる児相、大阪市はこども相談センターと申します。それと各区役所にございます子育て支援室が連携しながら、虐待のリスクを早めに察知しまして、ひどい、重大な虐待にならないように日々取り組んでいるところでございまして、なかなか家庭の中で起こることですので、いろんな関連機関との情報を共有しながら、なるべく早く、早期に発見して未然に防止して対応するというところを行っておりますが、それでもニュース報道等で流されるようなことが起こっている事態です。

人員に関しましてはなかなか厳しいところですが、実は令和2年度、重大な児童虐待ゼロを目指そうということで、区のほうに重点予算が配分されまして、各区の課題に応じた取組をしていこうということになっておりまして、港区の場合はその予算を活用いたしまして、子どもの相談を受ける家庭児童相談員の配置ですとか、やはり育児に悩まれているお母さん方に早い段階でご相談に乗る心理士の配置ですとか、そういうことをしながらできるだけ未然防止に努めるような対策を行っているところでございます。

また、地域もいろんな形でご協力いただいております、今ご意見いただきました委員の地域のほうでもふだんから見守り強化にご協力いただいておりますので、今後できるだけ、虐待かなと思われるようなことがありましたら、仮にそれが違っていてもそのことは通報いただいた方の情報は特にお伝えしませんので、とにかく気になりましたら区のほうにご相談いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○讃井議長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、そろそろ次の議題、またご意見あるようでしたら最後にお伺いいたします。

議題3、その他について区役所より説明をお願いします。

○西堂総合政策担当課長 続きまして、議題3、その他ですが、2つございます。

1つ目は報告でございます。

8月2日付事前配布資料もしくは当日配布資料⑥の令和3年度第2回区政会議全体会議で出されたご意見と区役所の対応（進捗報告）をご覧ください。

昨年11月に開催された令和3年度第2回区政会議で、視覚障がい者の方にとって重要な点字ブロックについてご意見をいただき、その後、視覚障がいをお持ちのご本人と一緒に現地を確認するとともに、改めて区役所、建設局、港警察署と共に現地を確認し、対応を協議いたしました。

その結果については、今年3月に開催された令和3年度第3回区政会議で、資料⑥の今後の対応に記載のとおり、①早期に対応できるもの、②今後対応に向け調整する内容、③現時点で対応が困難な内容としてご報告させていただきました。

その後の進捗として、②今後対応に向け調整する内容、ライフ前西側交差点点字ブロック、ガスト西側から横断歩道を渡った場所に点字ブロックを適正配置及び、③現時点で対応が困難な内容、ガスト前のバス停からガスト西側交差点までに点字ブロックの設置につきましては、今年度中に視覚障がい者誘導用ブロックの改良工事を施工する予定で手続が進められていることをご報告いたします。

2点目につきましては山口区長よりご説明させていただきます。

○山口区長 すみません。区長になりましてから初めての区政会議全体会ということで、前回も3月に筋原区長が話をされたということで、前の区ではなかったんですけども、せっかくの機会ですので、15分ほどお時間をいただいて、私が考える区政だとかいろんな、先ほどいろいろいただいた意見の中にも関わることをお話しさせてもらえたらと思います。着座にて失礼いたします。

まず、資料を投影いたしますので、少々お待ちください。

それでは、お話をさせていただきます。

まず、ご存じだと思いますけれども、前筋原区長とスイッチ人事という大阪市でもめったにない人事ですので、もともと筋原区長とは区長会議で大変仲よくさせていただいていまして、今回もお互いがお互いの区の区政アドバイザーとして、いろんな課題ができるだけ速やかに引き継がれるように、ただ、やはりお互いちょっと専門性が違うというか、筋原区長は港湾局が長くて、まちづくり、産業振興、公民連携に非常に強いお方でして、私もいろいろ教えていただいていたんですけども、私はどちらかという民間人校長をして、現在も中3と小4の子育て中ということもあり、どっちかという子育て支援、福祉、それから特に児童福祉、教育といったところに専門性があります。

あともう一つ、民間人のときに広報の仕事をしていたので、シティプロモーションというあたりが得意分野となっておりますので、2人で力を合わせればお互い、よりよい区政ができるのではないかとということで、まず港区まちづくりビジョンというものをしっかり引き継ぎながらやっているところです。

お手元に資料が1枚、書き込めるように、私がお説明する内容のポイントだけで書いた資料があると思いますので、それを見ながら進めていきます。

港区なんですけれども、私、生野区の区長を5年間やっている中で、生野区のことをよく課題最先端エリアというふうに言っていたんです。少子高齢化の最先端、そして長屋がいまだにたくさん残る空き家の問題、要は少子高齢化に伴ってどんな問題が起きるかという、当然働き盛りの人が減っていく、子育て世代が減っていくということで、空き店舗、空き家が大変多いまちでした。戦争で焼けていないまちということもありまして、空き家対策だとかそういった課題の最先端エリアでした。

港区へ来まして、やはり港区も似た課題を持っている。人口の減少率でいくと、5年前に実は見ていた資料でいくと、生野区よりも減少率が高かったのが港区です。よく、今8万人いますとあって、昔28万人いたんですけれども、もう8万人を昨年10月ぐらいに切っておりますので、このまま放っておくと、2040年ぐらいにはもう6万人ぐらいになってしまうということで、非常に人口減少の激しいまちであります。

その中でも、やはり高齢化率が高いまちになります。2045年のデータ、大阪市人口将来ビジョンというのがあるんですけれども、将来的にはもう3割以上の方が高齢の方で、そして、それは大阪市の中でも割と高いほうである、大阪市平均よりも高いほうであるという、そういうまちになりますよというところが今の予測です。

そして、もう一つが年少人口と言われるものなんですけれども、港区の少子化というところで、年少人口が非常に減ってしまうということで、8%から9%、実際、もう既に小学校に単学級と言われる1学年1クラスの学校が複数ある状態ということになっています。

これも分析をすると、市営住宅の多いエリアで、やはり市営住宅は高齢化していく中で子育て世代が入れない。いろいろ市営住宅の担当者にも来てもらって、実際まち歩きも一緒にしたんですけれども、建て替えはしているんだけど、なかなか国の補助金を入れている市営住宅に新たな住民を入れるというのは難しいというふうな仕組みであるとか、そういった中で高層化、いわゆる高く建て直すことによって今までの土地が空くので、そこに子育て世代が入れるようなマンションだったり住宅を呼んできて増やすというのが一つの方法です。今、区内にある割と大きな土地だとかそういったエリアに対しては、なかなか行政から働きかけて言うことを聞いてもらえるものでもないんですけれども、いろいろ努力して声かけをしているところです。

あと、やはり生野区から港区に来たときに一番気を引き締めなと思ったのが津波防災です。これはもう皆さんすごく意識が高くて、各地域の防災に対する取組というのは私がびっくりするぐらい勉強になる日々なんですけれども、一旦今、区民の皆さんに呼びかけをしている

のが津波避難ビル、もう3階以上に住んでいれば大丈夫なんですけれども、津波避難ビルを平日の昼間に行けるところと、夜とか休日に閉まっているかもしれないので、それを確認してほしいというのを今月号の広報紙でも防災マップを載せて訴えているところですので、こういった働きかけをこれからどんどんしていきます。

あと2点目は、徐々に、特に築港エリア辺りに外国人の方が増えているということもありまして、これは後ほどお話ししますけれども、やはり伝わる防災というのをやっていかないとけない。

そして、個別避難計画というものも今努力義務になりまして、これから何年間かかけてつくっていきますので、そういったところを取組しているところです。もともと本当に防災に力を入れてきたまちですので、それを引き継いできたということになります。

そして、これは前筋原区長も非常に熱心でしたし、前の田端区長もみなトクモンをつくったりということで非常に熱心であった。もう民間の方が何か港区をちゃんと盛り上げようという意識があって、いろいろ取組を進めてきた。そういう意味では最先端のまちだとも思っていますので、こういったGarage Minatoでのいろんな町工場とのコラボレーションによる新しい産業が生まれたり、イベントも公民連携で行われたりというようなことができているまちだなというのが私も感じているところです。

ここで、ちょっと私のまちづくりに対する考え方というのをお話ししておきたいと思います。

未来志向（バックキャスティング）という考え方でまちづくりをいつも考えています。

これは、小学校6年生の教科書に、校長をやっていたときに教科書が変わったんです。そのときに、「まちの幸福論」と言われる山崎亮さんという人が書いた文章がぽんと教科書に入ってきたんです。そこにあった言葉なんです。

要は、課題解決というか、もう目の前の課題ばかり見ていて、そこをどんどん解決するだけでは実を言うと行きたい場所に行けないということがありまして、まずは理想の港区、こんな港区になってほしいなど。要は子どもが増えて多世代が楽しく暮らせるまち、後で言いますけれども、既にある将来ビジョンがもう既に理想の港区なわけです。その理想の港区に向けて最短距離で行く、今とのギャップを見極めて、それを埋めるための最短距離を考えよう、最短のことを考えようというのがバックキャスティングという考え方です。

これは結構シンプルで、私はすごく浅田真央選手が大好きなんですけれども、彼女が小学校6年生のときの卒業式か何かで、私はオリンピックで金メダルを取りますとぽんと言って

いるんですよ。彼女の理想はもうずっとそこにあって、そこに向けての最短をずっとずっと彼女なりにやってきて、結果が伴う伴わないもありますが、それは誰でも、子どもが成長したいと思うときでも、大人が仕事ができるようになりたいとか会社を大きくしたいとかいろんな場面で使える思考法で、何か大人になると日々忙しくて、組織も何かずっと同じパターンで運営していると、もう目の前にある課題解決だけで、結局行きたい場所に行けないことになるので、これを常に言っています。バックキャストिंगで考えよう。

既に、どこの区もこういったビジョンを持っています。とにかく「『暮らして楽しい』『遊んで楽しい』『働いて楽しい』まち港区」になって、選ばれるまちになるんだというのが理想です。

この5つの柱を田端区長時代、そして筋原区長と引き継いできたので、私も引き継いでいきたい。当然ながら「安全・安心・快適」という部分が、快適というのは面白いなと思ったんですね。どこの区も安全・安心はめちゃくちゃ言うんですけども、快適はとても何かいい言葉じゃないですか。心地よいまち、選びたくなりますよね。あとは、当然ですけども、高齢化だからこそ人生100年時代を皆さんが「健やかにいきいきと暮らせるまち」であってほしいですし、子どもの学びと子育て世代を応援しないと来てもらえませんので、ここも大事なポイントになります。

そしてできれば、「働いて楽しい」の部分なんですけれども、産業振興をすることによって職住一体、もうコロナで遠くに出勤するという発想がだんだん変わってきた。またはテレワークで、家でできる仕事も増えてきた。ポストコロナのまちづくりというんですけれども、そういう中でいくと、港区で住みながら働くとか、ちょっと行ったら何かみんなが集まって働けるような場所、コワーキングスペースというんですけれども、大阪ベイタワーにもあります。そういったような場所があったりとか、そんなまちになったらすてきやなというふうに思うし、マイクロツーリズムとって、遠くに旅行に行くんじゃなくて、港区の中でとか近隣の大阪市民が港区目がけてもう1日遊び尽くせる。私は十分海遊館に行って、サンタマリアに乗ったりして、築港辺りで飲んで帰ってとか、朝はモーニングを食べてとか、このまちで幾つか旅行プランをつくってくださいと言われてたら、多分皆さんのほうがつくれると思うんですけれども、めっちゃつくれると思うんです。そういったことを発信していったりとかする中で活気あふれるまちづくりをしていく。

そして、大事なのが端っこの「区民主体のまちづくり」というところで、私はもうずっと生野区時代に、地域とは何だろうとか区民って誰ということをやずっと思っていたんです。理

由の一つが、区民アンケートをすると、生野区のと看に、生野区は魅力的だと思ひますかという質問に「いいえ」というのが半数を超えていたんですよ。え、何で住んでるのみたいな、何かちょっとびっくりするとか、シビックプライドという言葉があるんですけども、自分のまちに誇りを持って自分のまちをよくしようと自分から動く人たちというのが、別に生野区のと看は単に自虐的だったりとか、いろいろな歴史のある中でそういう言い方になっていたんだと思うんですけども、港区に来て思うのは、もう港区に対して誇りを持っている人たちが大変多いですし、地域活動も自信を持ってされている。割と若い人たちが入ってきているという印象がありますので、この輪をぜひ広げていくのが港区のまちづくりの理想なんだろうなというふうには思っています。

その中で、昨年度末に多分この区政会議でも報告があったと思いますが、港区のエリア別活性化プランというのがもうできていますので、これをどんどん実現していくというのが今の未来志向のまちづくりの正解だと思っているので、各エリア、本当に八幡屋公園さんとかもすごく頑張っていますし、先ほど空飛ぶ車がありました。いきなり実現するかはともかくですけども、やはり実現に向けて動いてく中で、港区がどこかでしっかり関わられたらいいなというふうにも思っています。

スケートボードなんかも、先日ちょっと話をしに行ったりとかいろいろ探しているところですけども、これは行政だけではできないことがいっぱいありますので、また地域、民間の方の力もお借りしながら進めていけたらと思っています。

その中で、参考文献みたいなのを裏側に載せているんですけども、そのうちの一つで、ポートランドというまちがありまして、これが非常に、生野のと看もポートランドは似ていると思っていたんですけども、より港区に来たら、港区もこれ、何か割とモデルになるまちやなというふうには思っています。徒歩20分圏内コミュニティが充実している、徒歩20分圏内で楽しめるまち、港区は十分楽しめます。そこはまたいろいろ発信もしていきますけれども、あとは市民や企業が参加する都市開発ということで、これも歴史的に港区が区画整理事業をやってきた。そういった中で区民が関わるまちづくりが進んできた。先ほどのG a r a g e M i n a t oみたいなプラットフォームも既にあると。あとは、海外への発信力を持つというところはまだできていない部分なので、これは万博に向けてチャンスかなというふうには思っているところです。万博まで盛り上げたらいいとは思ってなくて、当然その後も持続可能なまちをつくるというのが大事だと思っています。

私は専門が、専門と言うのもあれですけども、民間人校長になってから何で区長になっ

たかという、もう教育だけでは救えない。子どもたちが学校へ来ている間は守ってあげられますし、そこで与えられるものは全て与え切りたいと思って校長をやってきましたし、教職員と一緒にやってきたけれども、やはり家庭環境まで変える力が校長にはないんですよ。学校にはないですよ。頑張りましたけれども、ないんです。

それで、福祉をやらなければとか地域経済をしっかり活性化しないと、親が働いて経済が安定すれば当然それは子どもにもプラスになるわけなので、やっぱり一人も取りこぼさない。SDGsの理念はこれなんですけれども、これを言うのはすごく勇気が要るんです。一人も取りこぼさないまちにしますというのはめっちゃきれいごとじゃないですか。私、いつも言うたびにすごくびびるといふか、言うことによって、できていないということもやっぱり思い知るんですよ。24時間365日全てに区役所の職員が張っているわけではないんです。一人も取りこぼさないというのを理想にやっぱり掲げて、そのつもりで頑張っているんだけど、いやできてないよ、いやここにこぼれている人いるよ、障がいのある人がこのようなことで困っているよというのをこういった場で皆さんに上げていただいて、横のつながり、行政機関が連携したり、また民間の方と連携したり地域の方の力を借りながら、一人も取りこぼさない港区をみんなで作ると。

だから、「み(ん)なとマインド」という勝手に言葉をつくったんですけれども、割と名古屋市の港区が「みんなと」というのをよく使っているのを最近発見しましたので、まねしたわけではないんですけれども、ちょっと覚えておいていただけたらなと思っています。

港区はすごいですね。各地域ごとに地域福祉計画があるというので、びっくりしました。これ、今ちょうどつくり替えの時期ですので、地域でいろいろ話合いをしていただいて、本当にありがたいなと思っています。

あと、先ほど児童虐待の話がありましたけれども、地域の方によくお願いしていたのが、笑顔で挨拶だけお願いしますと。基本、児童虐待は、ほんまにしんどくて、ああいう事案になるケースは、もう保護者とか家庭が関わらせてくれないんですよ。めっちゃ頑張ってアプローチしているんだけど拒否をするんですね。援助拒否といって支援を拒否する。そういう人たちは、ちょっと見た目例えば派手だったりとかちょっと怖そうだったりして、地域の人でも何となく声を掛けづらくなって、掛けなくなって孤立していくという、別に孤立したいわけじゃないんだけどもそうなっちゃうみたいなのところがあるんです。これは学校の中でしんどい子も同じ傾向があるんですけれども、もうとにかく会ったらにっこり笑って挨拶していただけると、本当それだけで自分の存在が認められているというのと、笑顔はあなた

に会えてうれしいのメッセージなので、今マスクでしんどいですが、できるだけ、誰にでもできることなので、ぜひお願いしたいなというふうに思っています。

私の持ち時間が過ぎつつあるので急ぎますが、これは筋原区長が作ったスライドなんですけれども、私は「未来と世界にひらくまち」というキーワードをこのまちにつけたんです。それは筋原区長も同じことを言っていました。万博に集まる者を素通りさせない、ライバルはシリコンバレーという、かなり私は大胆なことを言っているなと思いつつこれを引き継いでいるところなんですけれども、実際にいろんな産業振興、町工場のつながり、それから新技術を取り込む、そういった取組が今までもありましたし、これからも推進していきたいと思っています。

あと、ちょっと参考までに、これは生野でも大分言っていたんですけれども、高齢化の最先端であるがゆえに、私たちが課題解決をすれば世界の最先端の課題解決エリアになる。つまり、万博を目がけて来る世界中の人たちは何を来ているのといったら、日本が先進国の中で最速の高齢化社会、超高齢化社会を迎えている日本がどんなまちをつくってどんなふうに高齢者が楽しく暮らしているのか、どうやってこれから自分たちの国が抱える課題を解決しているのかを見に来るんだよと。だから、少しでも日本の技術とか、またはまちのつながりの強さとか、そういったところで、日本のお年寄りめっちゃ元気だな、何かすごいなと思って帰ってもらおうよという話をよくしていたんです。この本はめちゃくちゃ参考になるのでいろんな人に宣伝をしているところなので、ぜひ興味のある方は読んでいただけたらなというふうに思っています。

こういった活動をしやすくするために、昨年度末に2つのプラットフォームというのがあります。さっきの空飛ぶ車みたいなのをやるみなと先端技術協議会と、もう一つがみなと地域マネジメント協議会というのは筋原区長がつくって出ていきましたので、これも引き継いで、今具体的に動いていることがそんなにないんですけれども、こういったものもまたご報告させてもらえたらなというふうに思っています。

あと、今マイナンバーカードの普及啓発にいそんでいるんですけれども、ぜひお近くの方にも勧めてほしいんですが、その先にあるものとして、やっぱり高齢の方もスマホを使えたいほうがいいと思うんです。今、音声入力もできますし、やっぱりLINEでつながったら、いざというときにステイホームでずっと会えなかったときとかは、高齢の方につながるのはすごく大変だったんですよ。あと防災の面でも絶対使えるようになってほしいと思っています。これは総務省も、国のほうも今懸命にスマホ講座をどんどん地域でやりましょうとい

うことを呼びかけています。大阪市でも呼びかけています。

これは生野区のとときに特集記事をつくったんですけれども、やっぱり80歳を超えた方がPay Payを使っているよとか、しかも知っている人が言っていると皆さんちょっとモチベーションが上がったみたいで、どうやったらスマホが使えるようになるのみたいな問合せ等がたくさんありましたので、ぜひ、これも近くでどんどん進めていただけたらなと思います。

あともう一つは、人口減少にどう対抗するかという話なんですけれども、全国的に少子化なんです。明石市だけが子どもを集めているような、すごくそういう映りになってはいますが、結局は、日本の子どもだけを見ているうちは多分もう奪い合いでしかなく、母親になる世代の人がどんどん減っている以上は少子化は止まらないです。

止まらないという前提で、本当は2つの議論をしないといけなかったと思うんです。もう国としてコンパクトになって、稼がなくてもいい、まったり幸せに暮らせばいいんだ、要は人口を増やさないという選択、コンパクトシティ化して増やさないという選択と、いやいや、もう日本は先進国として今までやってきたんだと、この経済成長は止めないんだという選択、本当はこういう議論をしっかりしないといけなかったんですけども、しないままに今、何となく経済成長をそのまま維持するぞというふうになっているので、その中でしっかり法整備がされていないのに外国のいろいろ技能実習生の方がひどい雇われ方をしたりとか、そういうのが大分問題になって、かなりこの何年間かで入管法が変わったり外国人の教育の在り方が変わって、もう受け入れる整備がなされてきたところなんです。

それは、各町単位でどうやっているかという、結構シンプルな話で、これもずっと生野区のとときからやっているんですけれども、「やさしい日本語」という考え方をたくさんの方に知っていただいて、英語とかはしゃべらなくて大丈夫ですと、日本語を勉強しに来ているので、できるだけシンプルな日本語を、公共交通機関でお越しく下さいと行政はつい使うんですけれども、電車かバスで来て下さいとか、どこの出身という言葉もよく使うんですけれども、どこの国から来ましたかと言ったり、相手に伝わる言葉で話しかけることでつながることができます。つながったら、その人がよく分からないどこかアジア圏の若者、怖い人たちではなく、国から出てきて一生懸命頑張っている誰々さんという個人になっていくので、それが人権が守られるまちだと思っていますので、ぜひこれも今後普及したいと思っていますところなんです。

あと、これはずっと言っているんですけれども、港区のもう一つのキーワードに「下剋上」と言っているんです。これは何かというと、港区長に決まっただけでなく、港区防災マップと

かで検索すると、必ず東京都港区に飛ばされるんですね。それが嫌さにつけたキーワードで、この間行ってきたんですよ、東京都の港区役所に。何のアポもなしだったので広報紙をもらって帰ってきましたけれども、もうめっちゃめっちゃお金がかかっていました。びっくりしました。でも、万博はこっちであるので、世界中の人が来て、港区といえば、いや大阪の港区のことでしょと言っただけ帰っていただくように頑張りたいなと思っています。

先日、市民局の事業で港区シティプロモーションオープン会議というのがありましたので、そこに60名以上、海遊館さんとか大阪ベイタワーさんとか空庭温泉さんとかいろんな人たちが、JRさんとかも来てくれて、盛り上げたい方が集まったので、その様子、今日で放送が最後なんですけれども、ベイコムニュースで10時半に流れます。あとアプリも見られますので、参考までにお知らせしておきます。「世界のMINATO」を目指すというのが私の思っていることです。

あと、こういった「みなとぐらし情報局」という、これは私がもうほぼ趣味でやっているというか、時間外にボランティアでやっている港区のグルメ記事とか、あと独り暮らしとか、ぜひこれ、たくさんの人にライターになっていただきたいのと、若い人にぜひSNSとか動画とかで、どんどん大阪市港区のグルメ情報とかまちのスポットとかを発信してくれたらうれしいなというふうに思っています。

あと、やはり、保育園は比較的入りやすいんです。やっぱり子育てしやすい、そして教育環境が充実しているというところに人は来ます。港区たんけん手帳という昔作られたもの、すごいよくできていて、あまりにもよくできているので、田端区長時代のものなんですけど、もう一回デジタルブックにしてもらって各小・中学校で見てもらえるように、夏の自由研究に最高ですので、ぜひ大人が見てもすごく勉強になるので、ネットで見られます。

あとは地元企業が出前を授業してくれたりいろんなことをやっていますので、こういった港区で育つ、学ぶこと、学びたいと思えるような環境をつくる。その中に、やっぱり1学年15人でしんどいよねみたいところとかも、地域の方とも話し合いながら解決もしていけないというふうにいるところなんです。

すみません、長くなりましたけれども、皆さん一人一人にできることがたくさんありますので、今日この場を借りてお伝えさせていただきました。一生懸命職員一同は一丸となって頑張りますし、また民間の方ともつながりながら、そしてこの区政会議の皆さん、地域の方ともつながりながら実現していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○讚井議長 山口区長、ありがとうございます。

それでは、まとめて全体に対しての質問、ご意見等ございますでしょうか。

ちょっと時間を過ぎていますが、せつかくですから、今のコロナの状況とかを医師会の山田先生とかちょっと教えていただいて、区役所とかの対応とかも教えていただけたらなと思いますので、よろしくお願いします。

○山田委員 港区医師会の山田です。

皆さんご存じのようにかなり感染者数が増えてきているので、もう検査自体や、検査キットが今足りない状況です。実際問題、コロナにかかっている人のほとんどが軽症で済んでいるというところが多くて、重症化はやっぱり少ないですね。

一つは、コロナかどうかというのを皆さん心配されるのと、陽性の証明が要するというような感じで検査に殺到されているのが多いように思われます。そういうところで検査自体が発熱外来をやられているところも手いっぱいになってくるし、検査キット自体も足りないというのが今の状況です。国のほうから検査キットに関しては配布するという報告は来ていますけれども、実際問題、それがいつ、どれぐらい入ってくるのかというのは分からない状況です。

それとは全く別の話なんですけれども、昨日大阪府のホームページで若年軽症者のオンライン診療スキームというのが発表されていて、稼働ができているのかどうかはちょっと知らないですけれども、昨日から始まっていると思います。若年の軽症の方というのは重症化のリスクは少ないので、自分で検査キットを薬局で買ったり配布されたものを使って、陽性であればオンラインのほうに登録してもらって認定を受けていただいて、あと薬とか必要な物品とかも配布するというようなことを書いていました。詳細はホームページで見ていただくのが一番いいと思うんですけれども、無料配布に関しては8月5日公開の予定と書いていましたので、明日どういうふうになっているかを私も見ようと思っています。医療機関にばかり殺到するというのはほかの業務も回らなくなってくる原因にもなりますので、軽症、もちろん若年の軽症で重症化のリスクが少ない方に限定されますけれども、やっぱり自分で検査して登録する、オンライン診療を受けるというのも一つの方法だと考えていただきたい。

それとは別に、昨日の新聞でちょっと読んだんですけれども、日本感染症学会が発表していたのは、若年の方で症状の本当に軽い人というのは四、五日ぐらいで一応治ってしまう可能性が結構高い。勿論重症化リスクのある方や症状が強い場合は別ですけれども、そういう人に関して言えば、無理に検査まで行かなくても、自分の判断で10日間外出せず、自宅療養

するという内容のものが載っていました。（勿論病状が変われば話は別ですが。）10日間の間で症状が消失し72時間以上経ていけば一応解除になっており、また解除のときに検査の必要性は全くないので、極端な話かも知れないですけども、今の切迫した状況でそれも1つの方法なのかなと感じました。これは港区医師会の意見というわけではなく私個人の感想ですので、その辺はちょっとご了承いただきたいと思います。

大体以上です。

○讃井議長 ありがとうございます。

何分いろいろ情報があるんですけども、本当に若者に届いているのかなというのはかなり感じるかなと思います。区役所の方から、何かご意見とかありますでしょうか。

○石田保健福祉課長 保健福祉課長の石田でございます。

区役所のほうで単独で施策を打つというのは基本的にまずはできませんので、国策に基づいて府市ということで取り組んでいるところです。

まず、港区の感染者の状況をご報告させていただきますと、先ほど夕方の5時の大阪府の報道発表によりますと、本日もやっぱり2万2,000人ほど出ております。市内でいきますと7,500ぐらいの数になっておりまして、ここ1週間ぐらいは7,000、8,000が市内で出ています。単純に24区で割りますと1区当たり300ぐらいということで、これは、各区別の分というのは風評被害の関係があるので全然報道発表もされていないし、僕らも知らないところなんですけれども、いろいろ健康観察とか区でやっているところで見ますと、大体港区でも多いときでしたら250、260とか、ちょっと日によって凸凹はあるんですけども、そんな状況には違いがございません。結構地域の集会とかに寄せていただきましたときには、基本的に3密の回避と手洗い、うがいですね、感染の防止。ちょうど市長も今言っているのが、やっぱり若年層の方の3回目接種というのがなかなか進んでいないという状況がありますので、3回目接種の推進と、高齢者の方につきましては4回目接種の推進というのをお願いしている次第でございます。

すみません、区独自の施策というのはございませんので、以上でございます。

○讃井議長 ありがとうございます。

ほか、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

無いようでしたら、本日は市会議員の先生方に出席していただいておりますので、一言ずつお願いしたいと思います。まず西議員、よろしく申し上げます。

○西議員 もう時間も超過しております。大変お世話になっております。

大変暑い最中ではございますが、皆様のご尽力に感謝を申し上げます。今後ともよろしくをお願いします。

以上でございます。

○讃井議長 山本議員、お願いします。

○山本議員 すみません。本当に皆さん、遅くまでお疲れさまでございます。

私のほうからは、本当にそれぞれ委員の皆さんは非常に貴重な意見だったと思います。市としても、これ対応しないといけないのはあるんじゃないかなと幾つか感じております。

その中で、やはり学校選択制のことです。いろいろ話題が出ておりますけれども、一応大阪市のほうとしましては見直しを図っていくということで、この3月の議会で、選択制自身も見直しを図りながら、人数が少なくなった学校に対してどうしていくのかというのをこれから検証するということです。当然、今の港区の少子化というか、人口減少の中で一番大きな問題だと思っております。

ただ、子どもたちだけの問題ではなくて、国のほうもこども家庭庁、先ほど虐待の話もありましたけれども、今までは縦割りでやっていたものをもっと総合的な形で対策していこうというような方針に変わろうとしております。

実際、社会自身もコロナと、それからウクライナの問題と、もう構造的に経済構造も変わっていかないといけない、まさに転換点である、そういう状況なので、様々な点をやはり総合的な視点からもう一回見直していただきながら、慎重に行政のほうは進めていただきたいと思っております。

また、地域の皆様も積極的にこういった機会に、もう本当に貴重な意見だったと思います。すごく参考になりました。しっかりと我々のほうも皆様のお声を形にしていきたいと思えます。

今日は本当にお疲れさまでございました。

○讃井議長 市会議員の先生方、ありがとうございました。

それでは、これで全ての議事が終了しましたので、区役所にお返しします。皆さん、ご協力ありがとうございました。

○西堂総合政策担当課長 讃井議長、議事進行ありがとうございました。委員、市会議員の皆様、ご協力ありがとうございました。

なお、限られた時間での会議ですので、十分にご発言いただけなかった委員の方は当日配布資料⑧港区区政会議に関するご意見シートに記入の上、ご提出ください。

お寄せいただきましたご意見につきましては、区役所の対応・考え方を取りまとめ、次回の区政会議、10月下旬頃を開催予定にしております。その場で回答させていただきます。

また、第2回区政会議の開催日につきましては、8月下旬から9月上旬にかけて委員の皆様へ日程調整をさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それから、時間を超過している中、恐縮でございますが、最後に区役所のほうより2点紹介をさせていただきます。

机の上にチラシを置いてございます。

1点目は、マイナンバーカード出張申請窓口開設キャンペーンです。チラシの裏面に8月のスケジュールが掲載されております。

また、「出張申請サポートを開催します！」というチラシも置かせていただいております。8月の土日のスケジュールも掲載しております。大阪市内に住民登録をされている方であれば申請が可能ですので、ご自身や周りでまだ申請がお済みでない方がいらっしゃいましたら、この機会にぜひご利用ください。

2点目は、先ほどの議事の中でもございましたが、新型コロナワクチン3回目接種がまだお済みでない皆様へのご紹介です。

現在、若い世代を中心に新型コロナ感染が急増しております。一方で、若い世代の3回目接種率は3割から5割台にとどまっております。このため、特に若い方の3回目接種を進めるため、8月までワクチン推進強化月間として、積極的な広報が図られるよう政府全体で取り組まれております。

ワクチン接種は、ご自身だけでなく、家族、友人など大切な方を守ることもつながってまいりますので、若い世代に限らず、3回目接種がお済みでない方は接種をご検討くださいますようお願い申し上げます。

それでは、最後になりましたが、副区長の若林より閉会のご挨拶を申し上げます。

○若林副区長 皆様、本日はお忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。また、貴重なご意見をいただきまして、重ねてお礼を申し上げます。

区政の運営に当たりましては、区民の皆様より様々なご意見をいただきながら、区内の実情でありますとか特性に即した施策や事業を展開し、また、その成果について評価をいただき、改善や新たな展開につなげていきながら、区民の皆様と共に、よりよい港区のまちづくりを進めてまいりたいと存じます。

今、コロナが激増しておりますし、また猛暑も続いておりますところでございますが、委

員の皆様におかれましては、どうか健康にご留意をされまして今後とも区政への引き続きのご協力をお願いいたしまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○西堂総合政策担当課長 以上をもちまして散会とさせていただきます。どうもありがとうございました。